

◆ 平成 26 年度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：荒川太郎右衛門地区自然再生協議会イベント実行委員会

代表者：実行委員長 川島秀男 加藤信一

URL：

1. 活動が必要とされた状況

荒川太郎右衛門地区自然再生協議会は、2002年結成後、初めての試みとして、一昨年、荒川流域の川島町、桶川市および上尾市などの小中学生を対象にして、オオブタクサやセイタカアワダチソウなどの外来種の駆除と昆虫観察会のイベントを実施した。今年は、植物、昆虫および魚の観察会を実施しました。当協議会では、外部の市民に自然再生の取り組み状況を知っていただき、今後ボランティア活動への支援を期待する狙いがありました。特に、子どもたちが楽しく遊びながら、自然再生地に足を向けていただく必要がありました。子どもたち参加者は、自然再生地が、将来地域あるいは首都圏の市民の憩いの場所、エコツーリズムに役立てば、荒川流域の町おこしにも繋がるものと考えました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

実施時期：平成 26 年 10 月 4 日（土）10：10～15：00

参加人数：小中学生、老人ホームの車椅子の方および大学生など約 100 名

活動内容：植物観察班、昆虫観察班および魚類観察班の 3 班に分け、巡回観察。午前と午後と。

- ・ユルキャラ出動：オケちゃん出演
- ・メダカ、ドジョウ、カメ、ヘビなど受付機の隣に展示し生き物に関心と感動を与えた。
- ・「生き物の観察ノート」を参加者全員に手渡した。



3. 活動の成果

晩秋の秋晴の下、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 25 年度秋のイベントが無事終了できました。従来、座学に終わっていましたが、今回、荒川太郎右衛門地区流域の子どもたちを主役としたイベントができたことは大きな成果だと思います。老人ホームの車椅子のみなさんにも見学いただきました。地元川島町生産者の協力により、新鮮なキュウリ、イチジクおよび新米の即売ができ、好評でした。



4. 今後に残された課題

- ・ケガ人もなくてよかったです。老人ホームの車椅子来客への安全安心の確保。
- ・様々な生きものとの出会いができたが、貴重品種の適正管理。
- ・交通事故もなく良かったと思うが、参加者の足の便、送迎問題。
- ・今年は学生に実行委員となってもらい良かったと思うが、学生の参画意識拡大に期待。
- ・来年は、ボランティアの自主的な参加を期待します。